科目名			担当教員	
特講・社会福祉学 10 （スクール・ソーシャルワーク論）			川口　正義	
科目コード	単位数	スクーリング単位	履修方法	配当年次
DT2210	1	1	S（講義）	1 年以上
生成 AI 利用レベル		試験（スクーリング含む）　：　C		

※この科目の会場スクーリングは隔年開講予定です。2026 年度の開講後は 2028 年度開講予定です。
※受講希望者はスクーリング申込締切日までに履修登録とスクーリングの申込みが必要です。

科目の概要

■科目の内容

スクールソーシャルワーク（SSW）は人権と社会正義を基盤とし、児童生徒が学校生活を円滑に送れるようにするための、また教師や学校組織が立案した教育活動を十分に展開できるようにするための方法・技術です。

スクーリングでは今日の学校現場の現状と課題をふまえたうえで、わが国の学校現場で切に求められてきているスクールソーシャルワークの概念、支援方法、役割及び課題について皆さんとともに学び、考えてみたいと思います。

■到達目標

１）学校現場の現状と課題をふまえたうえで、スクールソーシャルワークを導入した必要性と目的について述べることができる。
２）スクールソーシャルワークの価値、倫理について解説することができる。
３）学校・教師文化の特徴、及びスクールソーシャルワークの基本的視点と役割、機能、支援方法について説明することができる。
４）スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの役割の相違点、及び連携の必要性について説明することができる。
５）スクールソーシャルワーカーに必要な資質と専門性について述べることができる。
６）日本におけるスクールソーシャルワークの今後の課題について述べることができる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「俯瞰的な分析力」「倫理的実践力」を身につけてほしい。

■教科書・参考図書

【教科書】

スクーリングにあたって、当日、講義ノート、資料を配付し使用します。

【参考図書】

・門田光司・奥村賢一『スクールソーシャルワーカーのしごと―学校ソーシャルワーク実践ガイド―』中央法規出版、2009 年
・社団法人日本社会福祉士養成校協会監修，門田光司・富島喜揮・山下英三郎・山野則子編『スクール［学校］ソーシャルワーク論』中央法規出版、2012 年
・山野則子・野田正人・半羽利美佳編著『よくわかるスクールソーシャルワーク』ミネルヴァ書房、2012 年

・門田光司・奥村賢一監修，福岡県スクールソーシャルワーカー協会編『スクールソーシャルワーカー実践事例集―子ども・家庭・学校支援の実際―』中央法規出版、2014 年
・末冨芳編著『子どもの貧困対策と教育支援―より良い政策・連携・協働のために―』明石書店、2017 年
・日本学校ソーシャルワーク学会編『スクールソーシャルワーカー養成テキスト』中央法規出版、2008 年
・山野則子『学校プラットフォーム―教育・福祉、そして地域の協働で子どもの貧困に立ち向かう―』有斐閣、2018 年

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内容
1	学校教育現場を取り巻く現状と課題	児童生徒、保護者・家族、こどもの貧困、教師・学校
2	SSW を導入する必要性、目的と価値、機能	導入に至る経緯、概念、視点、目的、機能、活動スタイル、職務内容
3	教師、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーの役割分担	それぞれの役割と違い
4	SSW の実践①	事例の紹介
5	SSW の実践②	事例検討（グループワーク）
6	SSW の可能性と意義	SSW に期待される役割
7	SSW 活用に際しての留意点、今後の課題	学校・教職員との連携のあり方、課題
8	質疑応答	社会福祉士への役割期待と課題
9	スクーリング試験	

■スクーリング　評価基準

・授業への参加状況 50%＋スクーリング試験 50%（持込みはすべて不可）
・試験では単なる知識の確認ではなく、スクーリングで学んだ内容をふまえたうえで、試験テーマについて自分自身の見解をどれだけ論述できるかを問います。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10 時間）

参考図書などをもとに、スクールソーシャルワークとはどのような営みであるのか、その目的や役割などについて自分なりに考えイメージしてきてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25 時間）

学校教育現場とこども・保護者・家庭を取り巻く社会状況に関心を寄せるなかで、スクールソーシャルワークが担うことができる役割と可能性について、さらに学習を深め考えていってください。